

中国新聞

2月5日(火)

発行所
広島市中区土橋町7番1号
〒730-8677
中国新聞社
電話 082)236-2111(受付案内台)
郵便振替口座 01370-0-57
ホームページ
<http://www.chugoku-np.co.jp/>
紙面へのご意見・ご要望は
読者広報部 ☎082-236-2455

ちゃーピーメルマガ
無料 登録受付中
chipee@chapee-club.jp
へんメール登録!

可部線電化延伸を発表

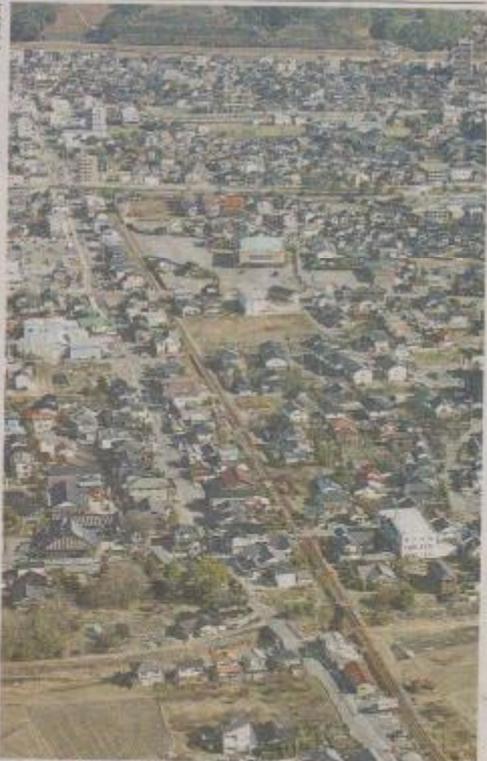
15年春復活は全国初

広島市とJR



広島市とJR西日本は4日、廃止されているJR可部線の可部-旧河戸間(広島市安佐北区)について、2015年春の運行開始を目標に電化で復活させると発表した。総事業費は約27億円。国から3分の1の補助を受け、市が負担する。国土交通省によると、JRで路線復活する全国初は、鹿線敷を活用する。旧河戸駅近くの県営住宅跡地に終点駅(亀山南1丁目)と、安佐北区役所ならに近間駅を1800人、終

クリック
可部-旧河戸間の電化延伸。1969年にJR可部線の横川(広島市)三段峡(旧広島県河内町)間が全線開通。利用者減などを理由に可部(安佐北区)に可部線活性化協議会が電化延伸による復活を検討。10年2月には活性化計画に明記し



JRで全国初の路線復活となる可部-旧河戸間の沿線。手前が河戸側 (撮影・福井宏史)

点駅を3000人と見込んでいる。終点駅まで横川(西区)可部間と同じ運行本数を確保するため、可部駅を上下線が行き違えるよう改良。住民から復活の要望があつた4カ所の踏切のうち、移設も含めて3カ所設置する。駅舎やレール、鉄橋などは市が整備。駅舎やホームは市が所有し、電車や線路の保守など運行に関わる経費はJRが賅う。この日、松井一実市長とJR西日本広島支社長が述べた。電化延伸は、08年9月に事業化の最終合意の覚書を交わしたと説明。松井市長は「延期、市やJRでつくる協議会が検討を続けていた。」

(有岡英俊)

地元熱意復活にレール

地域像構築が急務

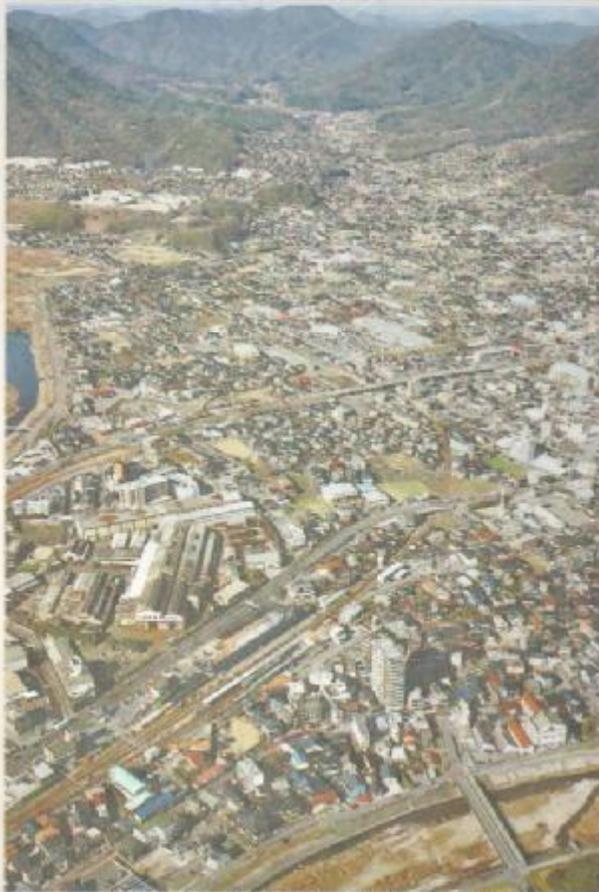
可部線15年度延伸へ

解説
JRで全国初の路線復活となる可部線可部-旧河戸間（広島市安佐北区）の電化延伸は、地元の熱意と路線全体での利用者増が事業化の決め手となった。中国地方のローカル線は減便が進み、地域の公共交通をどう守るかは喫緊の課題だ。可部線の経験は、活性化への試金石となる11面関連。

（有岡英俊）



可部線全線での2000人。可部-三段峡間11年度の利用者は8万7800人（横川駅を除く）が廃止された03年度比



JRで全国初の路線復活となる可部線可部-旧河戸間の沿線（撮影・福井宏史）

で132万人増えた。事業化は、大型商業施設の進出や駅周辺の再開発など沿線のまちづくりが相乗効果を生み、利用者に支えられた結果だ。

地元にとっては30年以上の悲願がかなう。

電化延伸の要望活動に合わせ、鳥取県の第三セクター若桜鉄道などを視察し、鉄道を生かすまちづくりを学んで表した。

市は1999年に策定した市基本計画に盛り込み、市北部の拠点整備の重要課題とした。地域の公共交通を

<電化延伸をめぐる動き>

- 1994年7月 JR可部線の可部-旧河戸間（広島市安佐北区）の電化延伸に向け地元住民が「可部駅・河戸駅間電化促進期成同盟会」を結成
- 2003年11月 可部-三段峡（旧広島県戸河内町）間が廃止
- 08年9月 可部線の活性化調査が国の補助対象になり、市やJR西日本などが可部線活性化協議会を設置して電化延伸の協議開始
- 10年2月 同協議会が電化延伸を活性化計画に明記
- 11年3月 11年度着工に向け、市が当初予算に関連経費を計上
- 3月 可部駅・河戸駅間電化促進期成同盟会が解散
- 7月 可部地区の約20団体でJR可部線利用促進同盟会を結成
- 12年1月 松井一実市長が、踏切の取り扱いをめぐる協議が難航していることから、11年度中の着工は困難と明言

延伸区間の一帯には、市立の基幹病院の建て替え候補地がある。建設地は本年度中に決まる予定だが、地域のレイアウトが大きく変わる可能性もある。新駅と周辺の団地を結ぶアクセス確保や沿線土地利用の活性化など、市は、将来を見据えた地域戦略を構築しなければならない。

財政支援する国の事業に選ばれ、JRとの本格協議がスタート。市が事業費を負担し、財産区分で新駅を所有することなどで採算性を確保できる見通しとなった。